

学友会報

発行
兵庫県立大学 学友会
神戸市西区学園西町8丁目2-1
電話 078-793-5081

県立大学の連携事業

医療・自動車・日本酒・地域など幅広く

それぞれの研究分野で特長を出して

米作りからラベルのデザインまで

◆環境人間学部◆

教育ならびに研究の一環として、環境人間学部の学生と教員が酒米作りから関わり、日本酒の製造に取り組みました。銘柄は日本酒「う米ゼ(うまいぜ)！」(写真下)で、ラベルの文字は清原学長の揮毫(きごう)、学生がそれをういてデザインしました。

本事業は産官学連携で、茨木酒造合名会社と兵庫県立工業技術センターの協力を得て実現し、茨木酒造(明石市)、松竹酒舗(加古川市)、山本酒店(姫路市)、兵庫県立大学生協(組合員限定)で販売しています。



究などを進めます。研究員ら十数人が常駐し、神戸大学の医学部や兵庫医科大学などと技術連携を促進していきます。

尼崎の魅力を発信

◆経営研究科◆

凸版印刷株式会社と経営研究科は産学連携事業の一環として、尼崎の魅力を発信する観光マップ「尼(あま)いもん」を制作しました(写真下)。本マップは尼崎地域産業活性化機構などを通じて無料で配布します。

中国人観光客の間で人気の高い尼崎地区について、兵庫県立大学大学院MBAコースで学ぶ学生や中国人留学生など12名が、凸版印刷の監修の元で



それぞれの目線でフィールドワークを実施しました。そしてその成果に基づき尼崎らしさを楽しむ3つのツアーと5つの商品を設定・選択し、日本語と中国語で紹介しています。

次世代自動車の材料づくり

◆高度産業科学技術研究所◆

高度産業科学技術研究所は自動車メーカーのマツダと材料開発に関する共同研究契約を結びました。大型放射光施設「Spring-8」に県立大が持つ実験装置を導入し、次世代の排ガス浄化触媒や繊維強化樹脂などの研究開発に取り組みます。

今秋をめどに導入する装置により、実際に車が使われている温度などの環境を再現し、分子、原子レベルの構造分析が可能になり、次世代自動車に必要な革新的な材料づくりにつながっていきます。また触媒の高性能化は使用する貴金属材料の量の低減につながり、新たな繊維強化樹脂の開発は自動車の



センターの「サテライトラボ」が入る「姫路ターミナルスクエア」

友会の副会長を務めています。よび環境人間学部の同窓会で、私は同会の相談役として学にそれらの活動は活発になってきたと感じており、これもひとえに会員の皆様方のご協力の賜物で、誠にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくご協力の程お願い申し上げます。



活発になってきた活動

学友会副会長 本西敦子

軽量化や高強度化が期待できます。

さらにスーパーコンピューター「京」などによる計算科学や材料工学も動員して共同研究にあたる予定です。

世界保健機関(WHO)からも認証

◆地域ケア開発研究所◆

平常時も災害時も、安心・安全を基盤とした健康社会の創造を目的に、当研究所は世界保健機関から『災害と健康危機管理に関するWHO看護協力センター』としても認証されており、看護学の立場から、地域・国・世界レベルでの災害への備え・対応について発信しています。また、大学院生らと共に「1.17ひょうご安全の日のつどい」では、明石市との合同訓練などに参加し、災害への備えなどの啓蒙活動を行い、東日本大震災の被災地での健康相談活動等も継続しています。

兵庫県看護協会東播支部と連携した活動としてボランティア看護師が看護相談や健康チェックを行う「まちの保健室」を開催しています。

第10回 キャンパスツアー

美観地区の3D映像に感嘆

情報科学キャンパスと防災センター

第10回キャンパスツアーを2016年6月22日に開催しました。旧3大学の卒業生およびその家族の39人が神戸情報科学キャンパスと兵庫県人と防災未来センターを見学しました。

神戸情報科学キャンパスでは、応用情報科学研究科の西村治彦科長、シミュレーション学研究科の畑豊科長からそれぞれの研究科の内容紹介がありました。そしてシミュレーション学研究科の3Dシミュレーションを体験しました。3方のスクリーンに映しだされた場面が立体的に見えるだけでなく、首を左右に振ったり、しゃがんだりするとそれに応じた角度で映像が変わるすぐれものでした。

その場面は倉敷市の美観地区で、有名な白壁の色を変えるとどんなイメー



スクリーンに映し出される倉敷市の美観地区の3D映像に見入る見学者たち

ジになるかが分かるようになっていきます。そして隣接する理化学研究所のスパコン「京」では、計算速度としては現在世界第4位です



情報科学キャンパスの見学を終えて、玄関ホールで研究科長らと交えて記念写真

兵庫県立大学
学生応援基金

未来を担う本学の学生を応援するため、卒業生・保護者・教職員などを中心に団体・企業や一般の皆様から寄付金を募り、それを原資として兵庫県立大学学生応援基金が設立されました。応援対象活動としては

1. 防災教育・ボランティア活動
2. 地域創生への取り組み
3. グローバル化への対応
4. その他

としており、ふるさと納税としての優遇措置が受けられます。

お問い合わせは学生応援基金事務局
(TEL:078-794-6580)まで

が、安定した運用効率などを考慮すると、速度第1位の中国のスパコンより優れているとの説明を受けました。

バスでHAT神戸（神戸市の東部新都心）に移動して昼食を取った後、兵庫県防災センターを見学しました。阪神淡路大震災や東日本大震災の記録を見学しました。生々しい震災の惨状を目のあたりにし、参加者の中には実際に被災した人もその時の思い出をかたっていました。

東北大地震を3D映像で記録した記録映画を見ました。あいにくの雨天でしたが、参加者の皆さんの中には、キャンパスの見学だけでなく、旧交を深められ、昔話に花を咲かせていたグループもありました。

「五国豊穰」に込めた思い

県立大学のCOC事業

兵庫県は但馬・丹波・播磨・摂津・淡路の「五国」からなり、地域ごと多彩な県民生活が送られています。そして、それぞれの地域が持つ課題に向けて、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」(Center of Community)として県立大学が活動しています。活動内容と提携している町市は次のとおりです。

- 地域資源マネジメント系
豊岡市、丹波市、篠山市
- 多自然地域再生系
養父市、佐用町
- 産学公連携系
姫路市
- ソーシャルビジネス系
尼崎市
- あわじ環境未来島構想系
淡路市、洲本市、南あわじ市
- 地域防災・減災系
淡路市、洲本市、南あわじ市
神戸市

第11回 エコフェスティバル

地域住民も参加

姫路環境人間キャンパス

平成28年7月3日、姫路環境人間キャンパスのホームカミングデイとして、学友会が協賛する「エコフェスティバル」が開催されました(写真右は案内看板)。参加者は環境人間学部の学生、地域住民、ゆりのき会(同窓会)会員など合計約400人に上りました。イベントとしては学生による模擬店、スタンプラリー、ビンゴゲームなどがあり、ゆりのき会は自主講座(華道、書道、リフォーム)の発表をしました。



《編集後記》学友会報は本号で第3号を迎えました。本会の行事などの活動をお伝えすることはもちろんですが、大学の現況をお知らせするのも重要な目的としています。大学の目的は教育・研究と社会貢献です。今号は産業界との連携について詳しく紹介しました。総合大学の強みを発揮し、学部の得意分野を活かして活発に動いています。また、地域に根差した事業の展開も成果を上げています。ますます大学の活動に目が離せません。(K&A)